

こんにちは
日本共産党です

沿線巨大開発ー運動公園地区

「計画通り進まない」と副市長答弁

日本共産党流山市議団
高野 とも 7155-1683
いぬい紳一郎 7159-2773
小田桐たかし 7154-0878
徳増 きよ子 7148-6871
市議団事務所
TEL/FAX 7157-6140



林森の伐採への怒りが大きく広がっています。

市内各地で緑地が大規模に開発される中、党市議団が今年実施した『市民要求アンケート』では、TX沿線開発について、「現計画のまま進めるべ

井崎市長が「こんな時代だからこそ開発を」と奔走する『つくばエクスプレス（TX）沿線巨大開発』。一方、運動公園周辺地区（千葉県施行）では矛盾が吹き出し、ゆきづまりがあきらかです。
計画見直し派が84%

108年市民要求アンケート

「これ以上税金を投入すべきではない」36・5%、「これ以上緑を切るべきではない」47・8%、「よく分

水道整備

これまでのペースで整備すれば、『56年かかる』と当局

経済情勢や市民要望を無視し、開発を促進する市長に対し、党市議団は矛盾を告発しました。運動公園周辺地区では、上水道の配水整備が6年間でたった10・4%（単年度平均1・73%）しか

上水道整備	事業進捗	事業費（党試算）
H21年度	1.4倍	7460万円
H22年度	3.6倍	1億9100万円
H23年度	2.5倍	1億3330万円

H20年度を1とした場合の値。事業費は、H20年度予算から試算

からない」6・5%となり、計画見直し派が84%となりました。経済不況が深刻化し、空きマンションが増加する中、日本共産党は、「幽霊マンションの街になつてしまわないか、30年後も安心して住み続けられるのか」と指摘し、思い切った計画見直しを求めました。

進んでいません。

わが党の指摘に、「計画どおりH34年度までの完成には、スピードアップが必要」としつつも、これまでのスピード（年1・73%）で整備した場合、「あと56年かかる」と初めて答弁しました。また、「スピードアップに必要な職員配置や財源確保ができる根拠は？」との質問に答弁すること

オオタカの飛来地も伐採！?

発で生み出した宅地等の売上金）で工事費を捻出しなければなりません。つまり、土地が売れず、収入が得られなければ、その分、県・市からの多

額の税金で穴埋めすることになるのです。副市長も「計画書通りには進まない」と答弁。事実上、初めて開発計画の矛盾を認めました。

さらに「市野谷の森以外に、開発区域内でオオタカが飛来している森林があるのでは」との指摘に、当局は「運動公園地区の開発地域で新たにオオタカの飛来・営巣が見られ、県が、H20年度

から3年間の実態調査を実施している」と認めました。しかし、全体的な保存を約束せず、わずかに保全されることを理由に、大規模な開発を容認する姿勢に終始しました。

「地権者のため」とはなにか...

日本共産党が沿線開発の批判をすれば、市長も他党・他会派も「地権者のため」と言い訳します。この開発は、地権者からの減歩（土地のタダ取り）を基本に事業計画が成立。負担をさせるのだから開発しなければならないのでしょうか。

しかし多くの地権者は、開発区域というだけで、私有地活用も、自宅の建て替えも制限され、5年も仮住居での生活を強いられるケースも。移転する場合、現在の住居と規模や間取りが同じであっても、数百万円単位で、借金・持ち出しをしなければ家も建てられないのです。それでも「地権者のため」なのでしょうか。

また、開発資金には巨額の税金が使われています。言い訳よりも、開発の見直しこそ必要ではないでしょうか。